

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 71

## Stan Kenton 【スタン・ケントン】

～作・編曲家、ピアニスト、バンドリーダーとして活躍した巨人～



Photo : Stan Kenton "The Essential Recordings" (Primo)

### Profile

1911年12月15日、米国カンザス州ウィチタ生まれ。本名はStanley Newcomb Kenton。幼少時よりピアノを学び、10代後半でバンドでツアーに出る。20代はローカル・バンドとハリウッドのスタジオで活動。41年、30歳の時に自身の楽団を結成し、初レコーディングを行う。バルボア・ボールルームを本拠地に演奏し、デッカからキャピトルにレーベルを移籍し、数多くの作品を録音する。43年末、アルバム「イーガー・ビーヴアー」のヒットで認知度と人気を獲得。40年代のウェスト・コーストのアンサンブルで人気を博し、自身のスタイルを確立していく。ピアニストとしても、アート・ベッパ、スタン・ゲッツ、アニタ・オデイ等と共演。47年に楽団は解散したが、50年に40人編成のオーケストラを再編し、“イノベーション・イン・モダン・ミュージック”を旗印に全米ツアーを敢行。スタン・ケントン楽団に在籍していたメンバー、メイナード・ファーガソン、コンテ・カンドリ、フランク・ロソリーノ、リー・コニッツ、リッチー・カミュカ等が、後に独立してリーダーとして活躍した。また、ジャズ教育のパイオニアでもあり、59年にインディアナ大学でスタンケントンジャズキャンプを設立。61年と62年にはグラミー賞「ベスト・ジャズ・パフォーマンス - ラージ・グループ (インストゥルメンタル)」を受賞。62年にアルバム「ウエスト・サイド・ストーリー」がグラミー賞にノミネートされる。ピアニスト、作曲家、指揮者、ジャズオーケストラのリーダーとして晩年まで活躍した。1979年8月25日、脳卒中により入院していた米国カリフォルニア州ロサンゼルス市のハリウッドのミッドウェイ病院で息を引き取る。遺体はウェストウッド・ヴァレージ・メモリアル・パーク墓地に埋葬された。享年67歳。

# SK's Great Album

150 作品以上の自己名義のアルバムが残されており、主に自身のオーケストラを率いて、見事なアレンジと壮大で繊細なサウンドで数々の名演・名作を残している。

スタン・ケントンの50〜70年代の3回のニューポート公演を収録



ライブ・アット・ニューポート：1959-1963-1971  
スタン・ケントン&ヒズ・オーケストラ  
(Jasmine：#1)

スタン・ケントン (p)、キャンボール・アダレイ、チャーリー・マリアーノ (as)、アーチャー・ウィーラー (bs)、他

Disc-1. 10 曲  
Disc-2. 13 曲  
Disc-3. 6 曲 (他、全 29 曲)

スタン・ケントン楽団の1972年のフロリダ公演の音源を収録



フライング・ハイ・イン・フロリダ・1972  
スタン・ケントン&ヒズ・オーケストラ  
(Sounds of Yesteryear：DSOY-934)

スタン・ケントン (p)、ジェイ・サウンダース、デニス・ノーディ、マイク・ヴァックス (tp)、マイク・ジャメイソン (tb)、他

1. ア・リトル・マイナー・プーズ 2. テーマ・フォー・オータム 3. ストピン・アット・ザ・サヴォイ 4. ガール・トーク (他、全 10 曲)

スタン・ケントンの1940年代の音源を4枚組に収録した豪華盤



ザ・スタン・ケントン・ストーリー  
スタン・ケントン  
(Proper：PROPERBOX13)

スタン・ケントン (p)、他

Disc-1. 22 曲 Disc-2. 24 曲  
Disc-3. 22 曲 Disc-4. 25 曲  
(他、全 93 曲)

1959、1963、1971年の3回に渡るニューポート公演の様相を収録した作品。キャンボール・アダレイやチャーリー・マリアーノ等も登場。オープニングの「テーマ・アンド・ヴァリエーションズ」から50年代、60年代、70年代のスタン・ケントン&ヒズ・オーケストラの名演が堪能できる。臨場感にも溢れ、ラスト前の「ワイライト・イン・ザ・ファヴェラス〜プロセッション・トゥ・ザ・テレイロ〜オムル〜カンプリメント」のメドレーも圧巻。

1972年3月22日と23日、アメリカ・フロリダ州・クリアウォーターに佇むフォート・ハリソン・ホテルで行われたスタン・ケントン楽団のコンサートの模様を収録した作品。総勢 18 名のオーケストラを率いて、洗練されたサウンドとスリル感とスイング感溢れる見事なアレンジを聴かせている。5 人のトランペット奏者を含む管楽器奏者、ラモン・ロベスのコンガ&ボンゴの好演も光る。正にケントン・スタイルと呼べるセンスが光る作品。

ジャケットに写るまるで映画俳優のようなスタン・ケントンのニヒルは表情も印象的な作品。「イーガー・ビーヴァー」等のヒット曲から、「ブルー・ミュージック」「ボディ・アンド・ソウル」「カム・レイン・オア・カム・シャイン」「イェスタデイ」「エイプリル・イン・パリス」「オーヴァー・ザ・レインボー」「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」等、スタン・ケントンの1940年代の名演を4枚組で93曲収録。これぞスタン・ケントン物語と呼べる豪華盤。

## ケントン・マジック

1940年代半ば、ケントンの楽団とそのスタイルは「音の壁 (The Wall of Sound)」と称された。また、ケントンのテーマソングに擬えて「リズムの名手 (Artistry in Rhythm)」とも称され、1940年代のウェスト・コーストのアンサンブルでも名を馳せ、自身の音楽を作り上げていった。ケントンは自身の音楽を“進歩的なジャズ”という意味で「プログレッシブ・ジャズ (Progressive Jazz)」と呼んでいたが、正に“ケントン・マジック”と呼べるほど、アメリカのジャズ&音楽シーンに変革と影響をもたらし、アーティスト達にも大きな影響を与えた。

## ケントン・ガールズ

スタン・ケントン楽団には専属女性ヴォーカリストが存在し、“ケントン・ガールズ”と呼ばれた。代表的な“ケントン・ガールズ”として、アニタ・オディ、ジュン・クリスティ、クリス・コナー、アン・リチャーズが有名。中でも、アン・リチャーズは1950年代半ばからケントン楽団で活躍し、スタン・ケントンと結婚もしている。オシャレで美貌と実力まで兼ね備えていたこともあり、結婚当時は多くの男性ファンが悲観に暮れた。夫婦として2人の子供を授かったが、1961年に離婚。アン・リチャーズは1982年に銃により46歳の若さで自ら命を絶している。

# Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.44

## ~ My Ideal【マイ・アイディアル】~

この曲は1930年にリチャード・ホワイティング作曲、レオ・ロビンソン作詞により、同年公開されたミュージカル映画「パリのプレイボーイ」の主題歌として作られた。映画では主演のフランス人俳優モーリス・シュヴァリエが歌っているが、大ヒットした訳ではなく、多くのアーティストに取り上げられてスタンダードとなっていった。ジャズ・トランペッターのケニー・ドーハムが1959年に録音したアルバム『静かなるケニー』に収録した名演も有名。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ジョン・コルトレーン 『バイアア』
- ケニー・ドーハム 『静かなるケニー』
- サラ・ヴォーン 『ドリーミー』
- バリー・ハリス・セクステット 『ルミネセンス』
- リタ・パイエス 『マイ・アイディアル』